

ろばの子に乗ったイエス様 (マルコ 11:1-10)

人は誰でも何かの問題があり、葛藤を覚え、また弱さを抱えて生きています。しかし、イエス様がその人に絶対と Only になったときに、そのような問題、葛藤、すべてに勝利できるようになります。問題がどういふ問題なのか、どのような葛藤なのかポイントではなくて、その人にとってイエス様がどういふ方なのか、そこに勝利のポイントがあるということを覚えましょう。イエス様は一体どういふ方なのでしょう。今日の聖書を通してそれを改めて確認していきましょう。

1. イエス様は世の王たちは解決できない霊的根本を解決なさった真の王キリストである。

第一にイエス様はこの世の王たちには解決できない霊的根本を解決なさる真の王様、キリストです。

イエス様をこのようにしっかりと分かったときに、どのような問題、どういふ葛藤があっても、それに打ち勝って勝利できるようになります。

1) 誰も乗ったことのないろばの子

今日の聖書を見ますと、いよいよイエス様がエルサレムに入ろうとしているところで、イエス様が弟子たちに誰も乗ったことのないろばの子を連れてくるように命じます。弟子たちはイエス様のおっしゃる通りにその村に行つてろばの子を連れてきました。すると、弟子たちが自分の上着をろばの子に乗せて、イエス様はそのろばの子に乗ってエルサレムに入ろうとしました。たぶん弟子たちを始め、大勢の群衆がとまどっていたでしょう。イエス様はこれからいよいよ今の政権を転覆させて、ローマを追い出して、イスラエルに栄光をもたらすために入ってくる王様だと信じていたのです。ならば白馬に乗って入るか、あるいはすごい馬車に乗って入ることが筋ではないでしょうか。なのにイエス様がろばに乗って入りました。ろばを見たことがありますか。大人のろばでも馬よりとても小さいです。その中でもろばの子、しかも一度も誰も乗ったことのない小さなろばの子に乗りました。何かおかしいな、変だな、何これ、どうしたんだというふうなたぶん心から思っていたと思います。しかし、もうエルサレムに入ろうとしているので何かあるだろうと思って、とにかく上着を脱いで備えをしました。それから、赤い絨毯などが敷かれるはずなのに、そういうこともないのでとにかく上着を敷いて枝を取ってきて、イエス様が行く道を整えることにしました。それからホサナ、ホサナと賛美までしました。何かモヤモヤしていたでしょうけれども、まあ結局はすべてがひっくり返されて何か起こるだろうという期待とともに最期までついていこうとしたわけですね。

2) 人々の期待を裏切るイエス様

これは人々の期待を裏切るイエス様の行為なのです。人々はイエス様が世の王たちがやっているようなことをやってのける方だ、そのような王様だと思って期待していました。イスラエルを助ける、イスラエルの英雄、ヒーロー扱いをしていたわけですね。それにしてはろばの子に乗るといふのはどうしても納得できない場面ではありますが、とにかくホサナ、ホサナと賛美をしながらイエス様について行くことになりました。なぜイエス様はみなさんの期待を裏切って白馬に乗らずに、誰も乗ったことのないろばの子に乗ってエルサレムに入ったのでしょうか。それは冒頭で申し上げましたように、イエス様はこの世の王たちには解決できない霊的根本を解決なさる真の王様、世の王とは違う真の王様、キリストなんだというメッセージなのです。世の王たちにはさまざまな権限や力があって、さまざまなことが可能になります。

3) 悪魔のしわざと地獄とのろいの運命を砕き

しかし、それは人の救いとは 1mm も関係ありません。しかし、イエス様はその王様とは違うのだよ。イエス様は悪魔のしわざを打ち壊して、地獄とのろいの運命を砕いて、神様を離れて滅びるしかない罪人の私たちに、神様と一緒に神の祝福の子どもになるようにいのちを与えるキリストなんだよ。あなたがたが期待しているような王様ではないよ。そのような期待はむなしなものなんだよということを表すためにわざわざろばの子に乗ってエルサレムに入られたわけですね。改めてこのろばの子に乗ってエルサレムに入ら

れたイエス様を見ながら、なるほどイエス様は世の英雄やヒーローではない。世の王たちがやれるようなことをなさる方でもない。イエス様は霊的根本を解決するキリストなんだ。世の中のどんなに偉い人間、どのようなすごい優れたヒーローがいたとしても、霊的根本は知ることできないし、解決することなどは甚だ無理なのです。だからキリストなるイエス様がこの世に来られたわけです。でもイエス様をホサナ、ホサナと賛美しながら従っている群れ、群衆、弟子たちでさえ、イエス様はそのようなキリストなんだということがまだまだ曖昧なのです。最後の最後にイエス様はろばの子に乗ってそれを示されました。

4) いのちを与え

しかもそのような悪魔のしわざを打ち壊し、人々にいのちを与えられる霊的根本を解決なさるいのちの主キリストとしての仕事を全うするために、世の中の誰も真似できない方法でそれを成し遂げられる方なんだということを示されたわけです。それで誰も乗ったことのないろばの子に乗って入られました。その方法は何かでしょうか。

5) 誰も真似できない方法(十字架の贖い)

他の王たちのように、武器や権力や何かの手段ではなくて、ご自分のいのちを贖いの犠牲のいけにえとして捧げる、十字架で死なれる不思議ではない方法でその問題を解決されるキリストですというメッセージだったのです。皆さん、永遠に心に覚えてください。誰も乗ったことのないろばの子に乗ってエルサレムに入られた王様、イエス様とは一体どういう方なのか。イエス様は世の王たち、この世にあるどのような優れた英雄でも解決できない人の罪を解決して、霊的根本を根こそぎ解決できる真の王様、唯一の王様、キリストその方なのです。イエス様はそういう意味でものすごく演出家のような方なのです。パフォーマンスではないでしょうか。あまりにもわかっていないので、私たち礼拝を捧げている信者にもイエス様はさまざまなパフォーマンスを皆さんに見せてくださるかもしれません。見て早く納得して頷いて「イエスはキリストです」という告白が心の中心から捧げられる信者になりましょう。

6) 絶対イエス、Only イエス(ピリピ 3:8)

なので、イエス様がろばの子に乗ってエルサレムに入られたということは、そのイエス様は絶対なのです。世の中の王様や誰かと比べられるような方ではありません。イエス様は絶対なのです。相対的に宗教とヒーローと英雄と有名な偉人等々と比べられるような存在ではないのです。だからイエス様は絶対です。イエス様が絶対なので、当たり前 Only イエスなのです。誰も乗ったことのないろばの子に乗ってエルサレムに入られた不思議な王様。絶対イエス。Only イエス。それが分かったときにどのような問題があろうが、葛藤があっても、危機がやってきても、どんな弱さを抱えていても、それにつぶれることなく、それに圧倒されることなく打ち勝って勝利できるようになります。そのときにパウロが刑務所の中で告白していたようなその告白が自分の告白になります。ピリピ 3:8。今までえらい、すごい、うらやましい、また誇りに思っていたすべてがキリストの前でちりあきたなんだ。これが絶対イエスです。Only イエスです。成績が悪くても頭が悪くても関係ありません。頭が良い人間でも絶対イエス、Only イエスでなければ問題や葛藤、弱さなどに囚われてアップアップするしかありません。しかし、どのような状況、どのような現実があろうが、絶対イエス、Only イエスがわかっている者は、それらのすべてはちりあきたなので、それに足をすくわれるようなことなどはありません。「どんなことがあろうが圧倒的な勝利者になれます」と告白して、またそれを体験しておあかす側に立たされるようになるでしょう。皆さんの心の中に永遠にイエスは、世の王たちには解決できない霊的根本を解決なさったキリスト、真の王様なんだということがしっかりと刻み込まれて、それがやぐらになることを主の御名によって祝福したいと思います。だからイエス様のことを考えるときに、霊的、根本という部分を忘れてはいけません。そこが欠けてしまうと、教会でも聖書を読んでいてもイエス様を自分勝手に作り上げるようになります。バプテスマのヨハネのようですよ。エリヤのようですよとか、イエス様が自分の中でそのような色になってしまうのです。だから、未だに問題や葛藤があればずっとそこに溺れるのです。問題があればそこに答えがあり、葛藤があればそれは更新の機会であり、危機がやってくればそれはチャンスなのに、絶対イエス、Only イエスになっていないので、つまり根本を見ることができないので、ずっと引っかかるばかりなのです。私たちはレムナントのときからそこを乗り越えて勝利できるクリスチャンになりたいと思います。

それから、このようにイエス様のことを正しくわかって、神様の恵みにより絶対イエス、Only イエスと告白できる信者は、これから二番目です。

2. 人が見られない霊的根本を見ると、自由を味わい回復する。

普通の人は見るできない霊的根本を見るように目が開かれますので、そこから今まで囚われていたすべてから自由になり、今まで誤解してねじ曲がっていたすべてが回復できるようになります。実際、今イエス様のために上着を脱いで準備をしてホサナ、ホサナと賛美をしているのですが、それが本当の賛美なのでしょうか。本当の献身なのでしょうか。彼らはイエス様にそのような期待を持っていたのに、イエス様が逮捕された瞬間、みな散って逃げ去って行きました。そのような賛美では無理なのです。そのような献身は、神様が望まれる献身ではありません。絶対イエス、Only イエスの信仰に立って目が開かれなければいけません。他の人は見ることはできません。学校の教師も国会議員もお医者さんも見ることができません。信者の私たち、しかも絶対イエス、Only イエスでなければ。誰かのせい、何かが悪い良いというのはまだ絶対イエスではないのです。何と誰と比べるのでしょうか。そういう人たちはすべてを回復するようになります。つまり本物にたどり着いて本物手に入れるようになるということなのです。

1) 過去の傷や呵責は、キリストが絶対必要な証拠-真の賛美の回復

根本を見るようになりますと、まず自分の過去を振り返ってみると、心の傷になるしかなかったものを、また呵責に悩まされるしかない、そういうものが確かにあります。しかし、それは表面ばかり見ていたからなのです。それが悪魔のしわざです。目に見えない霊的な事実、根本があるのに罪人なのでそれを見るできない盲目なので、表面ばかり見て誰かのせい、何かのせい、正しかったのか、間違っていたのか、是々非々等々に縛られるしかありません。しかし、霊的根本を見たときに、今まで縛られていた過去のすべてから切り離され、なるほど、それは呵責を持つような傷になるようなことではなくて、キリストが絶対に必要なその証拠だったんだね。霊的根本を見たときにそのようになります。だから自由になります。そのとき、初めて真の賛美を回復するようになります。救いの神様、キリストの父なる神様、主の御名をほめたたえます。私を地獄より罪より救い出した主の御名をほめたたえます。今日の聖書にあるホサナという賛美はまちがいでありません。しかし、その賛美は本物の本当の力を持つ賛美とは言えません。刑務所の中でも心から賛美をささげられます。天にある霊的すべての祝福をいただいて、私は幸せな者なんだと。明日死ぬかもしれません。でも、いつものようにエルサレムに向かって窓を開けて感謝とともにをお祈りをささげる、その賛美なのです。何かによってフラフラ揺れるような賛美ではありません。この賛美こそが力なのです。暗闇が砕かれて逃げる去る力なのです。霊的根本を見たときに、その人が人間的に評価されたときに、こうだ、ああだといろいろあるでしょうけれども、一切関係ありません。まず、過去のさまざまな鎖から自由にならないといけません。

2) 現実の問題や葛藤、危機は御座の祝福を味わう為のサイン-真の祈りの回復

そして過去から自由になって賛美を回復したクリスチャンは、現実にさまざまな問題、葛藤、危機などがありますが、霊的根本を見たときにそれは信者にとって契約の旅程だということが分かります。だから先ほど申し上げましたように、問題には答え。葛藤には更新の機会。危機はチャンスとして捉えることになるでしょう。自由になります。今までは問題があれば問題に溺れる。葛藤があれば葛藤に溺れる。危機があれば危機に溺れる。それが仕方のない当たり前のことになっていたでしょう。サタンのやぐらだったので。そこから自由になります。

そして、なるほど、現実の問題、葛藤、危機は、この地上のものではなくて御座の祝福を味わうためのサインなんだということが分かるようになります。そのときに初めて真の祈りを回復するようになります。何を食べるか飲むか、どうにかどうにかという祈りではなくて御座の祝福を味わう祈りになります。「神様、三位一体の神様が私の内側で私を治めてください。私を通して栄光を受け止めて、私を通してこの暗闇の地上に神の栄光を流してください」。そういう祈りをします。私は弱いものだと言ってください。しかし、それが一切問題にならないのは御座の祝福で私を満たしてくださることを味わうためのサインだからです。霊的根本を見ると同時に自由になると同時に祈りを回復するようになります。イエス様のことを

靈的根本からしっかりと見ることで、私たち信者もそのようなことができます。どういう現場でも家庭の事情がどうであれ、お父さん、お母さんがどういう方であれ、それに振り回されることはありません。レムナントはまだ小さいからそうなるしかないと思込ませることは悪魔のしわざです。赤ちゃんだから福音はまだ聞くことは無理だろうと思わせるのは全部悪魔のしわざなのです。大人より小さな赤ちゃんの方が先に福音が刻印されることで大人を上回るサムエルのような、ダビデのような、ダニエルのような、テモテのようなレムナントが起こされるのです。大人が勝手に勘違いしているのです。私たちにとってはすべてが機会です。なぜなら靈的根本を見ているからです。何も問題になりません。引っかかることがないように。それが環境であれ、人間であれ、条件であれ。

3) 歩いたことのない未来は、世界福音化完成のプロセス-真の献身の回復

そして人が見られない靈的根本を見る信者は、いまだまだ歩いたことのない未来、その未来が不透明なことで不安な材料ではなくて、必ず成し遂げられる神の契約、世界福音化が完成されるためのプロセスなのです。だから、未来に対しての不安などから自由になります。どうなるんだろうという恐れや恐怖や不安から自由になります。クリスチャンには未来に対して靈的根本をしっかりと見た時には、そういうことは私たちのものではありません。だからこそイエス様は約束されました。クリスチャンがこれから未来を征服者として堂々と歩くために、この世界福音化の完成のプロセスをたどっていくために、聖霊の力があなたがたに臨まれると、地の果てにまで証人となるという約束を与えられました。未来に対してその約束を握るわけです。不安、どうなるんだろう。このままもう一回、コロナが来たらどうなるのか。世界経済が、自然災害が、地球温暖化が、戦争がどうのこうのとさまざまなことがあります。それは私たちにとっては不安の材料ではありません。その中でも必ず世界福音化は止められることなく、迷うこともなく、必ず成し遂げられます。その中を私たちが歩くわけですから、私たちに必要なのは「どうなるんだろう？」ではなくて、聖霊の力に預かることです。その約束を握るための祝福の未来なのです。そうなったときに未来に対して不安から自由になり、逆に希望を持って歩くときに真の献身を回復するようになります。意味も分からずに上着を脱いで道を作ったり敷いたりするような、何かあった時には逃げてしまうような献身ではなくて、本当の意味での献身を回復するようになります。ローマの手紙 16 章に紹介されている人物もそのような献身をしていました。つまり一瞬、それが小さく見えても、この世界福音化と繋がっている献身なので、永遠に残る作品として作り上げられることになります。天の御国において輝く作品になります。それが形のある作品なのか、そうでないかいろいろありますが、とにかく真の献身の祝福を回復するようになります。ギリギリ礼拝を守るためにギリギリの教会生活、それも来ないよりはましかもしれませんが、そうではなくて教会がどれほど大事なのか、信徒ひとりひとりがどれほど大切な存在なのかを祈りつつ、そこで自分で捧げられる献身の内容は何だろうか。自分が何に必要なんだろうかということ祈りつつ、目立とうとしないで献身するようになるでしょう。とにかく旧約から新約に至るまで紹介されている神様にほめられ用いられた人々の献身のことを一つ一つ吟味してみてください。それが私たちのものなのです。その主人公になれるのです。どうすればでしょうか。靈的根本を見たときにそうなります。イエス様はご自分が違うよということを示されるために、そしてそのイエス様を信じている私たちがこれから自分の人生、残りの生涯を違う目で見えてイエス様と同じ道をたどるようになるために、わざわざ誰も乗ったことのないろばの子に乗ってエルサレムに入られましたことをぜひ心に覚えましょう。

もし私たちがこのように靈的根本を見ることができなければ、今日の聖書に出ているような人、イエス様が逮捕された瞬間、みな散って行ったように、自分の動機に囚われるしかありません。自分の水準にたまたまよくなるしかありません。だから結局、決定的な瞬間、逃げていきました。なぜなのでしょう。靈的根本を見ていないからです。なので私たちは今日のメッセージを通して、複雑ないろいろなことではなくて、これを深く黙想してみましょ。自分にとってイエス様はどういう方なのか。本当に絶対 Only なのか。それをまずチェックして、なぜイエス様は私にとって絶対で Only なのかを深く黙想してみましょ。それを皆さんが素直に深く黙想するその段階で皆さんも癒されつつあるということ覚えてください。急にどこかが治ったというのがありますが、これを黙想しようと思った瞬間からもう癒しが始まっているということを必ず体験するようになるでしょう。

それで靈的根本を見て、自分の人生を再解釈しましょう。私はイエス様を信じて本当に神に救われたと

いう感謝が生まれたときに、自分の過去、今まで一番ネックに思っていたことがあまりにも大きいので「あ、このためにあったものだ」と解釈しました。それが筋でしょう。本当にイエス様を信じて救われたということは、絶対 Only の感謝、祝福であれば何を基準にして解釈するのでしょうか。何をもの刺しにして解釈しますか。今まで通りにしましょうか。救われたので、つまり霊的根本を中心にして「なるほど。そのために一番嫌だったことがそれで許されていたんだね。一番自分にとってつらいと思っていたものが、なるほど、そのためにあったんだね。それがなかったら…」というふうに解釈します。過去も現実も未来も。それで私たちの癖になっている心の傷や感情がいつも先走るような刻印、根、体質が砕かれて、取り替えられるようにしていきたいと思います。そのときに真の賛美、真の祈り、真の献身を回復するようになるでしょう。皆さんは最高にかっこいいクリスチャンの人生を歩けるようになります。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日もさまざまなことがあります、神様に礼拝を捧げ、五旬節の祝福を体験することがなにより大切だと信じて礼拝の場に集まり、主に賛美を捧げ、神様のメッセージを聞きました。どうか聖霊様がひとりひとりに神の御声としてメッセージを聞かせてくださり、それがその人に刻まれて祈りとなるように、それが癒しの力となるように、そして証拠になるようにひとりひとりを祝福してください。今まで表ばかり見てだまされていたその体質が、今までの刻印が、傷や感情が先走るしかなかったサタンのやぐらが全部砕かれて、根本を見てすべてを回復することができるように、そのようなクリスチャンになるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン